

第 1 回 地域連携推進会議 議事録

日時:令和 7 年 12 月 17 日(水)13:00 ～ 14:30

場所:グループホーム紬

出席者:

- 石巻町金田区自治会:K(副会長)、N(副会長)
 - 民生委員:K、N
 - 家族代表:K
 - 利用者代表:Y
 - 管理者(社会福祉法人童里夢)
-

1. 開会・管理者挨拶

管理者より、本会議の趣旨が説明された。グループホームが地域に開かれた「住民の住まい」として、孤立せずに透明性を高め、地域・家族・利用者・職員が協力関係を築くことを目的とする。初回は評価や点検ではなく、互いを知り意見を聴く場としたいとの意向が示された。

2. 構成員自己紹介(要旨)

- 管理者:法人設立初期の平成 13 年から勤務し、現場や管理職を歴任。現在はグループホームの管理者を務める。
- K 氏(家族代表):娘が法人設立から半年後に入所し、23 年以上の付き合いがある。現在は紬の女性最年少(41 歳)として生活している。
- N 氏(民生委員):本年 12 月に拝命したばかりで、地域や福祉について学びたいと意向を表明。他法人の身体障害者グループホームでの勤務経験がある。
- N 氏(自治会副会長):自治会役員として、地域の状況を含めて勉強させてもらいたいと挨拶。
- K 氏(民生委員):民生委員として 3 年目を迎える。地域での協力体制を築きたい。
- K 氏(自治会副会長):以前は他の役職を務めていたが今年度から副会長に就任。来期は自治会長に就任予定であり、法人との連携を深めたい。
- Y 氏(利用者代表):現在行っている日中活動(人参のヘタ取り、袋詰め、コオロギの繁殖・洗浄作業など)について紹介。法人童里夢でグループホームを開所してから利用している。

3. 事業所紹介・運営状況

資料に基づき、グループホームの概要が説明された。

- 拠点:グループホーム紬(定員 10 名)、ひまわりハウス(定員 4 名)の 2 箇所。
- 生活の流れ:日中は「童里夢」「奏楽」などの事業所に通い、帰宅後は夕食、入浴、談笑など一般の住宅に近い形で過ごしている。
- 食事管理:法人の童里夢レストランから配送し、一人ひとりの体重に合わせてご飯の量を調整するなど、徹底した健康管理を行っている。
- 職員体制:紬には夜勤者が 1 名常駐。ひまわりハウスは夜勤なしの体制だが、警備会社(アルソック)と契約し、緊急時に備えている。

4. 主な協議・発言内容(資料外の内容を含む)

① 地域の防災組織への組み込みと連絡網の構築

災害時の対応について、非常に具体的かつ前向きな合意がなされた。

- **自治会からの提案(K氏)(副会長)**: 自治会で立ち上げている防災組織の中に、GHを正式に位置づけた。童里夢側のBCP(事業継続計画)に任せきりにするのではなく、地域が「GHに誰が何名住んでいるか」を把握し、発災時に自治会側から安否確認に動ける体制が必要である。
- **連絡網の合意: 管理者の連絡先を、自治会の防災連絡網に正式に登録することが合意された。**これにより、地域住民と事業所が直接つながるパイプが構築された。
- **避難の考え方**: 家族代表K氏より「車避難は渋滞で困難。徒歩による地域内助け合いが必要」との指摘があった。これを受け、管理者は「紬は耐震性も高くスペースがある。災害時には地域の方の一次避難先として開放することも検討したい」と応じ、相互扶助の姿勢が確認された。

② 現状の夜間体制と安全管理の実態

N氏(民生委員)の現場経験に基づく質問により、夜間の職員体制が詳らかにされた。

- **グループホーム紬**: 定員10名に対し、職員1名が宿直(夜勤)として常駐。現時点では利用者の状態が安定しており、1名体制で夜間の見守り・ケアが可能である。
- **ひまわりハウス**: 定員4名の小規模住居であり、**夜間の職員常駐はない。**
 - **バックアップ体制**: 警備会社(アルソック)の緊急通報システムを導入。異常発生時には警備員が駆けつけると同時に、管理者に即座に通知が飛び、管理者が現場へ急行できる体制を敷いている。
- **今後の展望**: 将来的な利用者の高齢化・重度化を見据え、この体制を維持できるか適宜検討していく必要がある。
- **管理者の24時間体制に対する「精神的な心配」**: 「ひまわりハウス(夜勤なし)に何かあった時、管理者が24時間電話を離せず、いつでも駆けつけなければならない状況は、**精神的に非常にしんどいのではない**か。自分自身もその経験があったが、お休みの日も休んだ気にならないのでは? (N氏(副会長))」と、管理者のメンタル面と持続可能性を心配する発言があった。管理者は、確かに常に携帯電話を意識している生活ではあるが、現在はアルソック(警備会社)と連携しており、まず警備員が駆けつける体制を組むことで、直接的な負担を軽減している。また、法人全体でバックアップする体制もあり、一人で抱え込みすぎないように工夫していると説明した。

③ 地域からの苦情・心配の声

地域住民からGHがどのように見られているかについて、忌憚のない意見が交わされた。

- **地域からの心配**: K氏(副会長)より、「以前、夜中にパトカーや救急車がGHに来ていたことがあり、近所では『何かあったのか』と心配する声があった」との事実が共有された。これに対し、管理者は事実関係(必要に応じた救急要請等)を説明し、「地域の方が異変に気づいて心配してくれること自体が、実は最大の見守りになっている。今後は可能な範囲で情報共有し、憶測による不安を防ぎたい」と感謝を述べた。
- **周辺清掃と評価**: 「職員が頻繁に外周の草刈りや清掃を徹底している姿を見て、地域は『しっかり管理されている』と感心している(K氏(副会長))」との声があった。
- **地域住民との過去のトラブル**: 「これまで、地域の方から何か言われたり、ちょっとしたトラブルになったりしたことはなかったですか?」(N氏(副会長))との質問あり、管理者は大きなトラブルや苦情は発生していないこと、永くこの地域で活動をしているため、認知してもらえている方も多く、地域の方と顔を合わせた際に挨拶を交わすなど、基本的なマナーの積み重ねが信頼につながっていると説明した。
- **苦情の有無**: 現在、地域からの具体的な苦情(騒音やマナー違反等)は報告されていない(K氏(副会長))。今後も、「顔が見える関係」を継続し、苦情が出る前に相談できる関係性を維持することを確認した。

④. 権利擁護と虐待防止の取り組み

グループホームの透明性を確保するための具体的な取り組みについて共有された。

- **虐待防止の徹底:**
 - **身体拘束の対応:**安全確保のためであっても、鍵をかける、縛る、過剰な服薬をさせるといった行為は一切行わない方針を徹底している。
 - **職員研修の実施:**身体的な暴力だけでなく、「言葉の暴力」や「放置(ネグレクト)」も虐待にあたることを周知。直近(12/13)も全職員参加の法人全体研修で虐待防止研修を実施し共有した。
- **通報義務と外部の目:**
 - 虐待や不適切なケアを早期に発見・防止するため、「通報義務」があることを組織として認識。身内だけで問題を抱え込まない体制を敷いている。
 - 虐待対応責任者や第三者委員を設置し、苦情解決窓口を明確化。家族や地域からの意見を吸い上げる体制を整えている。
- **地域・家族による「見守りの目」:**
 - K氏(家族代表)より、長年の関わりの中で築かれた信頼関係に言及があった。本会議のような場自体が、外部の目を入れることで虐待を抑止する重要な機能を持つことが再確認された。

5. 今後の予定

- 次回の開催時期について、年度末(3月)は自治会等の役員交代等で多忙となるため、11月～12月頃の開催が継続しやすいとの意見が出された。
 - 会議の様子を「ドリームメッセージ」、ホームページ等の広報誌に掲載することについて、構成員より承諾を得た。
-